

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：小児神経症

(不安神経症/神経性抑うつ/対人恐怖)

はき 1-86 精神科疾患について誤っているのはどれか。

1. 不安神経症は過度の不安を主徴とする。
2. 心身症では心理的・情動的因子が発生に関与している。
3. 躁うつ病では正常状態に復する時期がある。
4. 統合失調症は初老期に発病することが多い。

はき 4-88 小児神経症の症状で適切でないのはどれか。

1. 遺尿
2. 指しゃぶり
3. 昏睡
4. 痙攣

はき 10-73 失立・失歩がみられるのはどれか。

1. 不安神経症
2. 恐怖症
3. 抑うつ神経症
4. ヒステリー

はき 11-88 思考制止がみられる精神疾患はどれか。

1. 不安神経症
2. うつ病
3. 心身症
4. 統合失調症（精神分裂病）

はき 12-88 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. ヒステリー — 自殺念慮
2. 躁うつ病 — 過呼吸発作
3. 不安神経症 — 感情の高揚
4. 統合失調症 — 自我障害

はき 28-64 次の文で示す症例の病態で正しいのはどれか。

「85歳の女性。左大腿骨頸部骨折の手術を受けた翌日の夜に、ちぐはぐな言動が出現した。」

1. せん妄
2. 認知症
3. うつ病
4. 不安神経症

(多量遺尿型/排尿機能未熟型)

(熱傷/凍瘡・凍傷)

はき 3-84 重症熱傷でみられないのはどれか。

1. 低タンパク血症
2. 循環血漿量増加
3. 腎障害
4. 十二指腸潰瘍

はき 7-84 熱傷の重症度に関係しないのはどれか。

1. 年 齢
2. 性 別
3. 受傷面積
4. 損傷の深さ

はき 9-76 熱傷について誤っている記述はどれか。

1. 第1度は表皮のみの損傷である。
2. 第2度では水疱を生じる。
3. 第3度では皮膚移植が必要となる。
4. 低温熱傷は治りやすい。

はき 10-86 重症熱傷の初期治療で正しいのはどれか。

1. 全身の冷却
2. 頭部の挙上
3. 輸 液
4. 輸 血

はき 11-83 熱傷時最初に行う処置はどれか。

1. 水で冷却する。
2. 包帯で覆う。
3. 消毒薬を塗布する。
4. 軟膏を塗布する。

はき 14-83 熱傷について正しい記述はどれか。

1. 第1度の熱傷では最初にステロイド軟膏の塗布を行う。
2. 「9の法則」では頭部は総体表面積の18%にあたる。
3. 広範囲の熱傷では早期に輸液療法を開始する。

4. 第3度の熱傷では水泡形成が主体である。

はき 27-60 腎前性急性腎不全の病因はどれか。

1. 広範囲熱傷
2. 前立腺癌
3. 急性糸球体腎炎
4. ミオグロビン尿症

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：ショック	
--------------------------	--

はき 8-82 出血性ショックの症状で誤っているのはどれか。

1. 頻脈
2. 血圧低下
3. 尿量増加
4. 意識レベル低下

はき 10-84 出血性ショックを起こす出血量で正しいのはどれか。

1. 循環血液量の約1/3
2. 循環血液量の約1/5
3. 循環血液量の約1/7
4. 循環血液量の約1/10

はき 11-81 出血性ショックの症状でないのはどれか。

1. 意識障害
2. 頻脈
3. 血圧低下
4. 頻尿

はき 14-82 ショックについて誤っている組合せはどれか。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 心原性ショック | — 循環血液量の減少 |
| 2. 敗血症性ショック | — エンドトキシン |
| 3. 神経原性ショック | — 血管壁の緊張低下 |
| 4. アナフィラキシーショック | — 抗原抗体反応 |

はき 15-81 出血性ショックでみられないのはどれか。

1. 脈拍微弱
2. 皮膚温上昇
3. 血圧低下
4. 呼吸促進

はき 2-85 全身麻酔はどれか。

1. 脊椎麻酔
2. 硬膜外麻酔
3. 表面麻酔
4. 吸入麻酔

はき 3-88 麻酔について誤っている記述はどれか。

1. 吸入麻酔には酸素が使用される。
2. 脊椎麻酔は下肢の手術に適用できる。
3. 静脈麻酔は全身麻酔である。
4. 硬膜外麻酔には気管内挿管が必要である。

はき 7-88 意識が保たれる麻酔法はどれか。

1. 静脈麻酔
2. 硬膜外麻酔
3. 吸入麻酔
4. 直腸麻酔

はき 9-86 脊椎麻酔で手術が可能な骨折の部位はどれか。

1. 鎖 骨
2. 上腕骨
3. 肋 骨
4. 大腿骨

はき 13-79 脊髄麻酔で可能な手術はどれか。

1. 脳腫瘍摘出術
2. 甲状腺全摘術
3. 上腕骨骨折骨接合術
4. 虫垂切除術

はき 24-66 硬膜外麻酔について正しいのはどれか。

1. 局所麻酔薬をくも膜下腔に注入する。
2. 出血性素因のある患者でも安全に行える。
3. 頸部に用いることができる。
4. 効果発現は脊椎麻酔よりも早い。

はき 1-80 正しい組合せはどれか。

1. 筋緊張性頭痛 — 顔面神経ブロック
2. 三叉神経第2枝神経痛 — 下顎神経ブロック
3. 三叉神経第1枝帯状疱疹 — 星状神経節ブロック
4. 五十肩 — 肋間神経ブロック

はき 4-85 疾患と神経ブロックとの組合せで正しいのはどれか。

1. 後頭神経痛 — 硬膜外ブロック
2. 坐骨神経痛 — 星状神経節ブロック
3. 三叉神経痛 — 顔面神経ブロック
4. 五十肩 — 肩甲上神経ブロック

はき 8-83 痛みの治療を目的としない神経ブロックはどれか。

1. 三叉神経ブロック
2. 顔面神経ブロック
3. 大後頭神経ブロック
4. 肩甲上神経ブロック

はき 10-77 悪性腫瘍による痛みの治療で正しい組合せはどれか。

1. 上顎癌 — くも膜下腔ブロック
2. 舌癌 — 顔面神経ブロック
3. 子宮癌 — 閉鎖神経ブロック
4. 膵臓癌 — 腹腔神経叢ブロック

はき 13-80 星状神経節ブロックの適応でないのはどれか。

1. 末梢性顔面神経麻痺
2. 顔面の帯状疱疹後神経痛
3. 手の反射性交感神経性萎縮症
4. 片側顔面けいれん

はき 15-76 肋間神経ブロック後に突然の咳、胸痛、呼吸困難を生じた。最も考えられるのはどれか。

1. 気胸
2. 気管支喘息発作
3. 急性心筋梗塞
4. 解離性大動脈瘤破裂

はき 16-81 血行障害の治療に用いる神経ブロックはどれか。

1. 三叉神経ブロック
2. 星状神経節ブロック
3. 肋間神経ブロック
4. 坐骨神経ブロック

はき 18-83 硬膜外ブロックがよい適応である神経痛はどれか。

1. 三叉神経痛
2. 舌咽神経痛
3. 後頭神経痛
4. 坐骨神経痛

はき 19-83 末梢性顔面神経麻痺に有効な神経ブロックはどれか。

1. 顔面神経ブロック
2. 上顎神経ブロック
3. 浅頸神経ブロック
4. 星状神経節ブロック

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：子宮頸がん	
---------------------------	--

はき 14-84 子宮頸癌の原因と考えられているのはどれか。

1. ヒト乳頭腫ウイルス
2. 単純ヘルペスウイルス
3. 帯状ヘルペスウイルス
4. 風疹ウイルス

はき 19-76 疾患とその特徴で正しい組合せはどれか。

1. 子宮筋腫 — 過多月経
2. 子宮体癌 — ヒトパピローマウイルス
3. 子宮頸癌 — 卵胞ホルモン服用者
4. 卵巣嚢腫 — 月経困難症

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：子宮体がん	
---------------------------	--

はき 19-76 疾患とその特徴で正しい組合せはどれか。

1. 子宮筋腫 — 過多月経
2. 子宮体癌 — ヒトパピローマウイルス
3. 子宮頸癌 — 卵胞ホルモン服用者
4. 卵巣嚢腫 — 月経困難症

はき 20-65 癌と腫瘍マーカーとの組合せで正しいのはどれか。

1. 大腸癌 ——— CEA
2. 子宮体癌 ——— SCC
3. 胃 癌 ——— CYFRA
4. 乳 癌 ——— AFP

はき 20-65 癌と腫瘍マーカーとの組合せで正しいのはどれか。

1. 大腸癌 ————— CEA
2. 子宮体癌 ————— SCC
3. 胃 癌 ————— CYFRA
4. 乳 癌 ————— AFP

はき 25-60 乳癌について正しいのはどれか。

1. 腫癌は痛みを伴う。
2. 多くはホルモン依存性ではない。
3. 自己検診は推奨されていない。
4. 乳房の外上部の発生が多い。

はき 10-85 更年期障害の症状でないのはどれか。

1. 頭 痛
2. 動 悸
3. 咳 嗽
4. 不 眠

はき 14-71 巨人症でみられないのはどれか。

1. 発汗過多
2. 高血圧
3. 筋緊張亢進
4. 月経異常

はき 18-73 クッシング病でみられやすいのはどれか。

1. 月経異常
2. るいそう
3. 低血圧
4. 恥毛脱落

はき 19-67 アジソン病でみられないのはどれか。

1. 多 毛
2. 黒色斑点
3. 低血圧
4. 月経異常

はき 24-58 月経異常の原因とならないのはどれか。

1. **ネフローゼ症候群**
2. クッシング症候群
3. 子宮筋腫
4. 神経性食思不振症

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：接触性皮膚炎	
----------------------------------	--

はき 1-82 皮膚疾患について正しいのはどれか。

1. 円形脱毛症はウイルス感染が原因である。
2. **脂漏性湿疹は油脂を取り扱う人に多い。**
3. 接触性皮膚炎はウイルスとの接触により起こる。
4. 帯状疱疹は分節性の神経皮膚炎である。

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：アトピー性皮膚炎	
------------------------------------	--

はき 1-88 アレルギー疾患について誤っているのはどれか。

1. アレルギー鼻炎では発作性のくしゃみや鼻閉がある。
2. アトピー性皮膚炎は内因性のアレルギー機序で発症する。
3. **じんま疹はしばしば気管支喘息を合併する。**
4. 食事性アレルギーはレアギン型アレルギー反応で起こる。

はき 5-82 心身症として適切でない疾患はどれか。

1. 本態性高血圧症
2. 気管支喘息
3. **うつ病**
4. アトピー性皮膚炎

はき 22-67 アトピー性皮膚炎について誤っているのはどれか。

1. **II 型アレルギーである。**
2. 季節により症状が変動しやすい。
3. 気管支喘息と合併しやすい。
4. 家系内発症がみられやすい。

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：じんま疹	
--------------------------------	--

はき 1-88 アレルギー疾患について誤っているのはどれか。

1. アレルギー鼻炎では発作性のくしゃみや鼻閉がある。
2. アトピー性皮膚炎は内因性のアレルギー機序で発症する。
3. **じんま疹はしばしば気管支喘息を合併する。**
4. 食事性アレルギーはレアギン型アレルギー反応で起こる。

(湿疹)

はき 1-82 皮膚疾患について正しいのはどれか。

1. 円形脱毛症はウイルス感染が原因である。
2. 脂漏性湿疹は油脂を取り扱う人に多い。
3. 接触性皮膚炎はウイルスとの接触により起こる。
4. 帯状疱疹は分節性の神経皮膚炎である。

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：円形脱毛症	
---------------------------	--

はき 1-82 皮膚疾患について正しいのはどれか。

1. 円形脱毛症はウイルス感染が原因である。
2. 脂漏性湿疹は油脂を取り扱う人に多い。
3. 接触性皮膚炎はウイルスとの接触により起こる。
4. 帯状疱疹は分節性の神経皮膚炎である。

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：結膜炎	
-------------------------	--

はき 5-76 アレルギー性結膜炎の症状で適切でないのはどれか。

1. 眼瞼浮腫
2. 視力低下
3. 掻痒感
4. 流 涙

はき 11-70 流行性角結膜炎について誤っているのはどれか。

1. 細菌感染
2. 潜伏期は約 1 週間
3. 耳前リンパ節腫脹
4. 点状表層角膜炎

はき 15-82 流行性角結膜炎を起こすのはどれか。

1. 黄色ブドウ球菌
2. 緑膿菌
3. アデノウイルス
4. 帯状疱疹ウイルス

はき 18-76 結膜炎について誤っている記述はどれか。

1. アレルギー性結膜炎ではかゆみが強い。
2. クラミジア性結膜炎は難治性である。
3. 細菌性結膜炎は大型濾胞が特徴である。
4. ウイルス性結膜炎は院内感染が起こりやすい。

はき 21-66 眼疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

1. アレルギー性結膜炎 —— 眼瞼腫脹
2. 緑内障 —— 水晶体混濁
3. 白内障 —— ブドウ膜炎
4. 角膜炎 —— 眼圧亢進

はき 27-67 アデノウイルス感染症はどれか。

1. 伝染性単核球症
2. 流行性角結膜炎
3. 手足口病
4. 突発性発疹

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：角膜炎	
-------------------------	--

はき 11-70 流行性角結膜炎について誤っているのはどれか。

1. 細菌感染
2. 潜伏期は約 1 週間
3. 耳前リンパ節腫脹
4. 点状表層角膜炎

はき 21-66 眼疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

1. アレルギー性結膜炎 —— 眼瞼腫脹
2. 緑内障 —— 水晶体混濁
3. 白内障 —— ブドウ膜炎
4. 角膜炎 —— 眼圧亢進

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：麦粒腫	
-------------------------	--

はき 6-72 眼疾患とその徴候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 緑内障 — 眼圧上昇
2. 白内障 — 角膜混濁
3. 眼精疲労 — 調節異常
4. 麦粒腫 — 眼瞼腫脹

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：白内障	
-------------------------	--

はき 6-72 眼疾患とその徴候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 緑内障 — 眼圧上昇
2. 白内障 — 角膜混濁
3. 眼精疲労 — 調節異常
4. 麦粒腫 — 眼瞼腫脹

はき 8-88 眼疾患について正しい組合せはどれか。

1. 白内障 — ブドウ膜炎
2. ベーチェット病 — 色覚異常
3. 網膜色素変性症 — 水晶体白濁
4. 緑内障 — 眼圧亢進

はき 9-72 筋緊張性ジストロフィーの症状で誤っているのはどれか。

1. 筋トーヌスの亢進
2. ミオトニア
3. 性腺萎縮
4. 白内障

はき21-66 眼疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

1. アレルギー性結膜炎 — 眼瞼腫脹
2. 緑内障 — 水晶体混濁
3. 白内障 — ブドウ膜炎
4. 角膜炎 — 眼圧亢進

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：緑内障	
-------------------------	--

はき 6-72 眼疾患とその徴候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 緑内障 — 眼圧上昇
2. 白内障 — 角膜混濁
3. 眼精疲労 — 調節異常
4. 麦粒腫 — 眼瞼腫脹

はき 8-88 眼疾患について正しい組合せはどれか。

1. 白内障 — ブドウ膜炎
2. ベーチェット病 — 色覚異常
3. 網膜色素変性症 — 水晶体白濁
4. 緑内障 — 眼圧亢進

はき21-66 眼疾患と所見との組合せで正しいのはどれか。

1. アレルギー性結膜炎 — 眼瞼腫脹
2. 緑内障 — 水晶体混濁
3. 白内障 — ブドウ膜炎
4. 角膜炎 — 眼圧亢進

はき 22-70 緑内障でみられるのはどれか。

1. 結膜の炎症
2. 眼球の陥凹
3. 水晶体の混濁
4. 視野の障害

はき 6-72 眼疾患とその徴候との組合せで誤っているのはどれか。

1. 緑内障 — 眼圧上昇
2. 白内障 — 角膜混濁
3. 眼精疲労 — 調節異常
4. 麦粒腫 — 眼瞼腫脹

はき 5-75 メニエール病について適切でないのはどれか。

1. 内リンパ水腫
2. 聴力正常
3. めまい発作
4. 耳鳴り

はき 11-80 メニエール病の症状でないのはどれか。

1. めまい
2. 耳鳴り
3. 難 聴
4. 耳 漏

はき 14-85 メニエール病について誤っている記述はどれか。

1. 伝音性難聴をきたす。
2. 発作は反復消長する。
3. めまい発作をきたす。
4. 自発眼振が出現する。

はき 15-78 「40歳の女性。3か月前から歩行時のふらつき、めまいが出現した。また、2か月前から左の難聴、耳鳴りと左顔面の感覚が鈍いことを自覚している。四肢の筋力低下はない。」最も考えられる疾患はどれか。

1. メニエール病
2. 突発性難聴
3. 聴神経腫瘍
4. 脊髄空洞症

はき 22-83 メニエール病の症状としてみられないのはどれか。

1. 耳 漏
2. 耳鳴り
3. 難 聴
4. 眩 暈

はき 18-71 ベーチェット病の特徴的な症状でないのはどれか。

1. ブドウ膜炎
2. 中耳炎
3. 口腔内アフタ性潰瘍
4. 陰部潰瘍

はき 6-71 突発性難聴の症状で適切でないのはどれか。

1. 伝音難聴
2. 耳鳴り
3. 耳の閉塞感
4. めまい

はき 9-84 突発性難聴で誤っているのはどれか。

1. 突然に発症する。
2. 感音難聴である。
3. 耳鳴りを伴う。
4. 顔面神経麻痺を伴う。

はき 15-78 「40歳の女性。3か月前から歩行時のふらつき、めまいが出現した。また、2か月前から左の難聴、耳鳴りと左顔面の感覚が鈍いことを自覚している。四肢の筋力低下はない。」最も考えられる疾患はどれか。

1. メニエール病
2. 突発性難聴
3. 聴神経腫瘍
4. 脊髄空洞症

はき 21-83 突発性難聴について正しい記述はどれか。

1. 伝音難聴である。
2. 頭痛を伴う。
3. 耳鳴りを伴う。
4. 抗菌薬が有効である。

はき 13-88 アレルギー性鼻炎について正しい記述はどれか。

1. 遅延型アレルギー反応で起こる。
2. 診断には鼻汁の好酸球検査が重要である。
3. 慢性化することは少ない。
4. 副鼻腔炎の原因にはなりにくい。

はき 17-82 アレルギー性鼻炎について誤っている記述はどれか。

1. 発作性のくしゃみがある。
2. 水様性鼻汁を特徴とする。
3. IgG 抗体が関与する。
4. 手術療法が行われる。

はき 19-65 アレルギー性鼻炎の診断に有用なものはどれか。

1. IgA 抗体
2. IgE 抗体
3. IgG 抗体
4. IgM 抗体

はき 13-88 アレルギー性鼻炎について正しい記述はどれか。

1. 遅延型アレルギー反応で起こる。
2. 診断には鼻汁の好酸球検査が重要である。
3. 慢性化することは少ない。
4. 副鼻腔炎の原因にはなりにくい。

はき 18-82 慢性副鼻腔炎に関して正しい記述はどれか。

1. ウイルス感染が多い。
2. 水様性鼻汁が特徴である。
3. エックス線検査が有用である。
4. 内視鏡下手術の適応ではない。

はき 1-86 精神科疾患について誤っているのはどれか。

1. 不安神経症は過度の不安を主徴とする。
2. 心身症では心理的・情動的因子が発生に関与している。
3. 躁うつ病では正常状態に復する時期がある。
4. 統合失調症は初老期に発病することが多い。

はき 5-87 認知症が認められない疾患はどれか。

1. アルツハイマー病
2. 脳血管障害
3. 正常圧水頭症
4. 神経症

はき 10-73 失立・失歩がみられるのはどれか。

1. 不安神経症
2. 恐怖症
3. 抑うつ神経症
4. ヒステリー

はき 11-88 思考制止がみられる精神疾患はどれか。

1. 不安神経症
2. うつ病
3. 心身症
4. 統合失調症（精神分裂病）

はき 12-88 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. ヒステリー — 自殺念慮
2. 躁うつ病 — 過呼吸発作
3. 不安神経症 — 感情の高揚
4. 統合失調症 — 自我障害

はき 28-64 次の文で示す症例の病態で正しいのはどれか。

「85歳の女性。左大腿骨頸部骨折の手術を受けた翌日の夜に、ちぐはぐな言動が出現した。」

1. せん妄
2. 認知症
3. うつ病
4. 不安神経症

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：統合失調症	
---------------------------	--

はき 1-86 精神科疾患について誤っているのはどれか。

1. 不安神経症は過度の不安を主徴とする。
2. 心身症では心理的・情動的因子が発生に関与している。
3. 躁うつ病では正常状態に復する時期がある。
4. 統合失調症は初老期に発病することが多い。

はき 11-88 思考制止がみられる精神疾患はどれか。

1. 不安神経症
2. うつ病
3. 心身症

4. 統合失調症（精神分裂病）

はき 12-88 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. ヒステリー — 自殺念慮
2. 躁うつ病 — 過呼吸発作
3. 不安神経症 — 感情の高揚
4. 統合失調症 — 自我障害

はき 26-70 させられ体験がみられるのはどれか。

1. 統合失調症
2. 単極性障害
3. 双極性障害
4. 広汎性発達障害

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：うつ病	
-------------------------	--

はき 11-88 思考制止がみられる精神疾患はどれか。

1. 不安神経症
2. うつ病
3. 心身症
4. 統合失調症（精神分裂病）

はき 12-88 疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

1. ヒステリー — 自殺念慮
2. 躁うつ病 — 過呼吸発作
3. 不安神経症 — 感情の高揚
4. 統合失調症 — 自我障害

はき 14-86 うつ病の特徴でないのはどれか。

1. 喜びの消失
2. 焦 燥
3. 睡眠障害
4. 幻 覚

はき 15-83 うつ病に最も関連の深い神経伝達物質はどれか。

1. アセチルコリン
2. セロトニン
3. ヒスタミン
4. グルタミン酸

はき 16-83 うつ病に特徴的な訴えはどれか。

1. 考えが抜きとられる。
2. 自分の悪口が聞こえる。

3. 頭が働かず考えが進まない。
4. 誰かが自分を監視している。

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：アルコール依存症	
------------------------------	--

はき 1-86 精神科疾患について誤っているのはどれか。

1. 不安神経症は過度の不安を主徴とする。
2. 心身症では心理的・情動的因子が発生に関与している。
3. 躁うつ病では正常状態に復する時期がある。
4. 統合失調症は初老期に発病することが多い。

はき 5-82 心身症として適切でない疾患はどれか。

1. 本態性高血圧症
2. 気管支喘息
3. うつ病
4. アトピー性皮膚炎

はき 11-88 思考制止がみられる精神疾患はどれか。

1. 不安神経症
2. うつ病
3. 心身症
4. 統合失調症（精神分裂病）

はき 13-87 心身症の特徴として適切でない記述はどれか。

1. させられ体験がある。
2. 不安感を伴う。
3. 愁訴が多い。
4. 心理的要因に影響される。

はき 17-64 アルコール依存症の離脱症状として適切でないのはどれか。

1. 手指振戦
2. 幻 視
3. 発 汗
4. 四肢のしびれ

臨床医学各論 その他の領域 キーワード：心身症	
-------------------------	--

はき 13-87 心身症の特徴として適切でない記述はどれか。

1. させられ体験がある。
2. 不安感を伴う。
3. 愁訴が多い。
4. 心理的要因に影響される。

臨床医学各論	その他の領域	キーワード：神経性食欲不振症	
臨床医学各論	その他の領域	キーワード：神経性過食症	